

新しい左京区基本計画づくり

ニュースレター 第11号



発行日 平成22年10月22日
発行者 左京区役所区民部総務課
Tel 771-4235

第6回 次代の左京まちづくり会議 を北部地域で開催しました！

9月14日に旧別所小学校講堂（花脊別所町）において、第6回左京区の未来をつくる区民会議「次代の左京まちづくり会議」を開催しました。今回の会議では、北部地域の左京区住民円卓会議委員の方々を交えて、「京都市基本計画第2次案」や「新左京区基本計画 素案への意見募集」の結果等を踏まえて、計画案についての意見交換を行いました。

●第6回 次代の左京まちづくり会議における意見交換の概要●

京都市基本計画第2次案について

- 新しい計画の策定に当たっては、単に環境を保全するだけでなく、社会とのかかわりや交流の中で環境のあり方を考えることが重要である。
- これまで、一般の民間企業で働く人は地域社会とのかかわりが少なかったが、これからは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現し、地域社会において活躍する必要がある。
- 北部山間地域で生まれ育っても、働く場所がなければ地域を出ていくことになる。こうした問題は個人で解決することが難しい。失業が多く、雇用が不安定な今だからこそ、行政が率先して山間地域でできる仕事について考える必要があるのではないか。
- 最近は自然食や有機農業が注目されているので、北部山間地域の自然を生かした農業とともに、農作物の加工、飲食・宿泊などを総合的に展開し、地域を訪れる人との交流を深めることが重要である。



- 北部地域で暮らしたい人は、すぐに定住するのではなく、最初は借家を希望される方が多い。空き家を改修し、体験的に暮らすことのできる仕組みをつくることが求められている。

新左京区基本計画（案）の検討について



- 最近では北部山間地域の観光農園や、市街地の貸し農園の人气が高まっており、一般の方が耕作する趣味的な農地が増加しつつある。こうした流れを踏まえ、農地保全の担い手として、一般の農家の方だけでなく、一般市民の役割も重視することが必要となってきた。

- 観光農園での農作業等を通じて、北部地域に住みたい人を増やすために取り組んでいるが、せっかく育てた農作物が収穫期に鳥獣に荒らされてしまうと、意欲がなくなってしまう。定住化を促進するには、鳥獣被害を食い止める必要がある。
- 杉などの植林が進み、動物たちの餌となるドングリや栗、柿などの実のなる木が減少したため、動物たちが餌を求めて山を下りてくるようになった。実のなる木を植樹するなど、動物と共生できる山に再生することも人間の役目である。
- 京都市未来まちづくり100人委員会からチマキザサ再生プロジェクトが生まれ、上手く動き出しているので、次はドングリ再生プロジェクトを展開していくのも良いかもしれない。
- 自然と共生するためには、単に自然を保全するだけではなく、地域の暮らしと自然が密接なかかわりを持ちながら、農業なども含めて全体のバランスを取ることが重要である。そのためには、山が生み出した資源を生かして、地域の産業として成り立つようにすることが求められる。
- 計画に掲げられた取組内容を実現するには、一般の区民の方々に計画について知っていただく必要があるが、実際にはなかなか情報が伝わってこない。行政からの情報を届けるためのシステムをつくるのが大事ではないか。
- 子どもと大人が対等に話し合う場を増やしていけば、地域のことに興味を持つ子どもが増え、さらには行政の情報が広がることに繋がると思う。
- PTA、教師、自治会の役員の方が集まって協議するコミュニティスクールを実施すると、地域と学校の先生のつながりが生まれ、地域情報が学校に伝わり、学校の取組を地域が応援する体制をつくることができる。



旧別所小学校講堂